

ごみ減量化モデル事業最終アンケート調査結果

ときがわ町では令和2年度も町内 2 地区、30 世帯の方々にごみ減量化モデル地区として、ごみの減量化・資源化にご協力をいただきました。

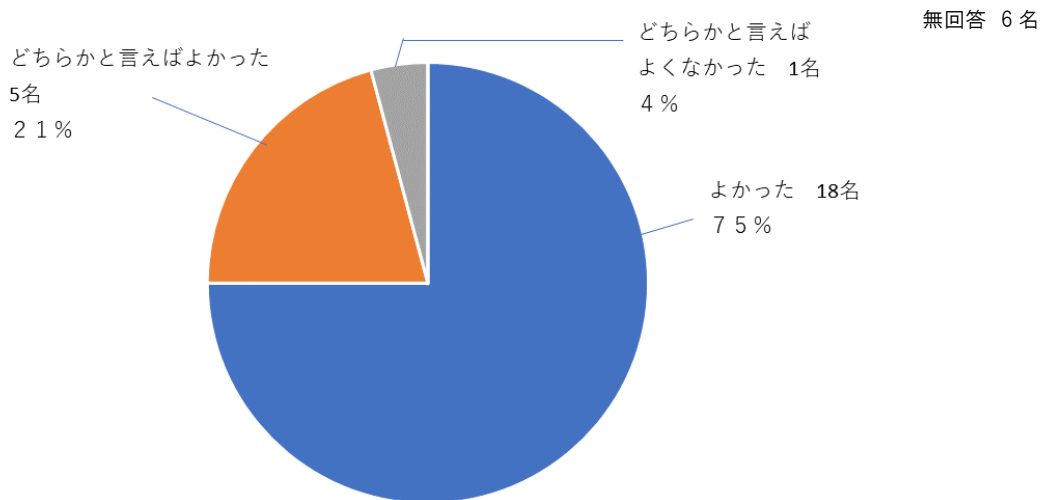
今後、町全体への取り組みへつなげていくために、昨年度 1 年間ご協力いただいた皆様に以下の内容でアンケート調査を行ない、結果を取りまとめましたので報告いたします。

- 1 アンケート目的:ごみ減量化に取り組んでいる世帯の意識や意見を参考にして、今後の事業展開に役立て、町全体への取組みに広げる。
- 2 アンケート対象:ごみ減量化モデル事業の協力世帯(30 世帯)
【 春和4地区 15 世帯 番匠台区 15 世帯 】
- 3 アンケート期間:令和3年5月21日～令和3年6月10日
- 4 アンケート方法:協力世帯にアンケート用紙を直接配布。無記名で回収。

5 アンケート内容と結果

問1 ごみ減量化モデル事業に参加してどうでしたか？

| 問 1 | 回 答 | 計 |
|-----|----------------|----|
| 1 | よかった | 18 |
| 2 | どちらかと言えばよかった | 5 |
| 3 | どちらかと言えばよくなかった | 1 |
| 4 | よくなかった | 0 |
| 合 計 | | 24 |

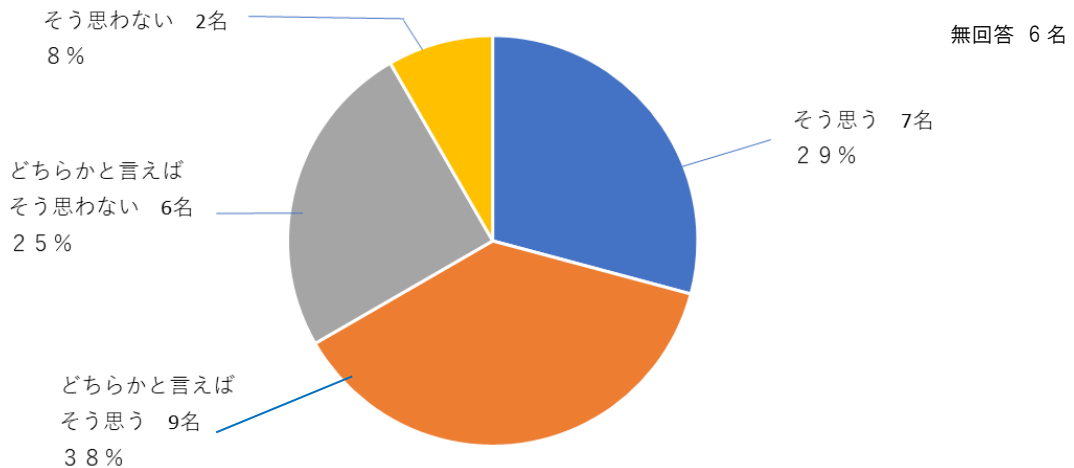


[問1に関するご意見]

- ・ 地区内で、ごみの減量化や出し方についての話し合いが多くなったと思う。
- ・ ごみと思っていたものが資源になるものがあるので、再確認できてよかったと思います。
- ・ 可燃ごみの中から一手間かければ雑がみとして出せるものもあることを実感できた。
- ・ 生ごみの大半は水分という事、実感しました。一手間が大切です。
- ・ 分別しかりすれば資源になるとわかりました。これからも続けて行きます。
- ・ ごみの数量を記載し、目で確認する事で、増減がはっきりわかるので分別の意識が変わりました。
- ・ ごみ減量に対する関心が深くなりました。
- ・ 問題(重要性)を持つ事が出来た。特に紙関係。
- ・ 初めは面倒でしたが慣れたらおもしろくなりました。
- ・ 明らかに、ごみの量を減らすことができました。意識を持って取り組むことは大切と実感しました。
- ・ 自分の家から出たごみの量が分かり減らすことが出来た。
- ・ ごみの出し方について見直す事が出来ました。特に雑がみを可燃ごみの中へ入れていた事(反省)
- ・ 意識なく分別することで、可燃ごみの量がだいぶ少なくなり、ごみ捨ての負担も減った。
- ・ 少しでもごみを減らそうと水切りをしっかりとしました。
- ・ 今まで出していたごみより、なるべく少なく出す様に心がけました。ごみ減量化に参加してからは、考えてごみを出す様になりました。
- ・ 参加前と後で大きく変わった。ごみ減量を常に考えるようになった。

問 2 生ごみや雑がみを分別することで可燃ごみを出す回数を減らせると思いますか？

| 問 2 | 回 答 | | 計 |
|-----|-----|----------------|----|
| | 1 | そう思う | 7 |
| | 2 | どちらかと言えばそう思う | 9 |
| | 3 | どちらかと言えばそう思わない | 6 |
| | 4 | そう思わない | 2 |
| 合 計 | | | 24 |

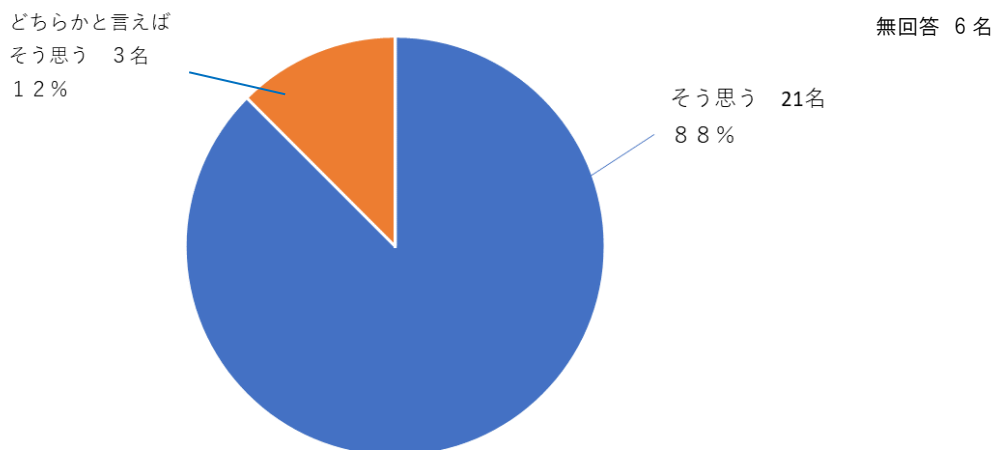


[問2に関するご意見]

- ・ 雑草や剪定した小枝等は出来る限り乾燥させてから出すようにすれば大きな減量化に繋がると思う。
- ・ 生ごみと雑がみを分別することは当然の事と思います。
- ・ 雑がみは分別できるのでよいが…。生ごみは畑などなく、自宅の庭でコンポスターを使用するのは難しい。
- ・ 生ごみを自宅で処理できない場合、特に夏は一週間置きたくないと思う。私はコンポスターを利用しています。
- ・ 各家庭、条件は違うと思いますが水切りする事により量は減りました。(夏は心配かも)
- ・ 分別がしっかり出来れば自然に量が少なくなり回数が減ってくると思います。
- ・ 町民一人一人のごみの分別の意識が変わらないと無理だと思います。事業を町全体で実施しては？
- ・ 生のままではなく、ある程度乾燥してから出せばかなりの効果があるのではないかと思います。
- ・ 夏など気温などに左右される気がする。(腐敗等、心配)冬場などではできるかもしれない。
- ・ 以前は週2回、出していましたが、ごみ減量化に努め現在は1回になりました。やれば出来るのでは。
- ・ コンポスターでの処理は時間もかかり生ごみを全て処理できません。季節的にも高温時に、ごみを一週間ためておくのは狭い家では無理があります。
- ・ 収集が減るのはよい事だと思います。
- ・ 分別をしっかりすれば出来ると思う。
- ・ 生ごみは一週間置けないので生ごみ処理が進めば週一回に減らすことができると思います。
- ・ 週一回だと、ごみの量が増えて置く場所が大変になる所も出てきそうな気がします。夏は特に大変に思います。(虫の問題)週に2回は出したいです。
- ・ ごみの量が減っても、臭い等は出やすいので、収集の回数を減らしてほしくない住民は多いと思う。
- ・ 一人一人がごみを出す事をしっかり意識して出してほしいですね。
- ・ 一度モデル事業に参加すれば可燃ごみ週一回はできます。

問3 ごみの減量化は、より多くの方が習慣化して継続して行うことで効果が表れます。今後も継続して行っていきたく思われますか？

| | | 回 答 | 計 |
|-----|---|----------------|-----|
| 問 3 | 1 | そう思う | 21 |
| | 2 | どちらかと言えばそう思う | 3 |
| | 3 | どちらかと言えばそう思わない | 0 |
| | 4 | そう思わない | 0 |
| | | | 合 計 |



[問3に関するご意見]

- ・ 今後も地区全体で、ごみ問題(仕分け方や出し方)のマナー等について関心を持って取り組めたらと思っています。
- ・ 継続する事に意義が有り習慣化する事で日常が苦にならなくなります。
- ・ 捨ててしまう雑がみ等を分別することで、ごみの減量化に繋がるので継続していきたく思います。
- ・ 町の経費の問題ですから。
- ・ 焼却処分費用が少しでも抑えられればと思います。
- ・ まだ資源ごみになるものとごみの分別が、しっかり出来ず。徹底すれば出来ると思います。
- ・ 広報等で目に入る大きな文字、色等でごみの分別をしっかり行った場合、小川地区衛生組合に支出している金額を示すと効果が上がるのではないのでしょうか。
- ・ 減量化により体に対しての負担も減る。生ごみ臭も少なくなり継続して行きたい。
- ・ ごみ集積場の量を見ると、かなり多く、減らしたいと思う。
- ・ 決められているルールを守る事を徹底して行うことが大切。絶えず減量化に努める意識を持つ。
- ・ 初めは面倒でしたが慣れたらおもしろくなりました。
- ・ 明らかに、ごみの量を減らすことができました。ごみを減らすことに意識を持って取り組むことは大切です。
- ・ ごみが減量化するのはよい事だと思います。
- ・ 今は習慣になっていますので、これからも続けます。
- ・ 一人一人のごみの減量化によって、自分にとっても町や施設にとっても負担が減ると思うから継続します。
- ・ 小さな町だからできること、一人一人の自覚を高めて行きたいですね。
- ・ 毎日、ごみは出るのでしっかりと考えて出してほしいです。
- ・ モデル事業時、計測したことが身について終了後も継続していきます。

問4 町では令和3年度も事業を継続して行います。先駆者として、このほかにも皆様がごみの減量のために取り組まれていることや、新たな取組等のご意見がありましたらお聞かせください。

[問4に関するご意見]

- ・ ごみ減量化に対して標語などで強く訴えたらと思う。
- ・ 携わってみて、より強く感じました。大勢の人が経験する事が先決だと思います。
- ・ 少しでも生ごみを減らす為、捨ててしまいがちな葉っぱなどを食べるようにしている。
- ・ 雑がみは資源に生ごみはなるべくコンポスターを利用して量を少なくしていきます。
- ・ 事業に参加した事でごみの分別の大切さがよくわかりました。雑がみが増加することで可燃ごみが減少すること。町からも発信してほしい。
- ・ 大変勉強になりました。
- ・ ① 先駆者かどうか？もし花壇、畑があれば肥料にするとか(もちろんの事)
- ・ ② リサイクルが可能か否かよく考えて処理したい。
- ・ ぜひ継続していただきたい。減量への意識の低い方たちへの助言などができたらと思いますがなかなか。広報でのお知らせなど続けていくと良いと思います。
- ・ 雑草や植木の葉・木は必ず乾燥してから出す。コンポスターの利用…肥料としての活用のPRを)
- ・ 計量は別にしなくても良いのでは。
- ・ 分別を徹底する。必要以上に買わない。ため込まない。など、できるだけシンプルに生活することを心がけたいです。
- ・ またやるとしたら参加したいと思います。
- ・ 家族一人一人の分別意識の一致が必要。
- ・ 可燃ごみの中へ雑がみを入れない。草類は太陽に当て乾燥させる。ごみ減量化のモデルを一人でも多くの方に経験してほしいです。ごみの出し方を見直す事が出来ると思います。
- ・ 各家庭でもごみの分別について話す機会があるといいと思う。家庭内で一人が分別しても他の家族も分別について理解できていないと効果が得られづらいので。
- ・ 今後もごみ減量に協力していきたいと思います。
- ・ 今までは、ダンボールと雑がみを一緒に出していましたが別に出す様にしました。パックのごみなど、なるべく小さく切って出す様にしました。
- ・ 生ごみに関し搬出を最小限にして畑などの隅にコンポストを利用しています。まだ、この取り組みを知らない人が多数いると思うので広報等でアピールしてほしいです。大変でしょうが排出量ゼロに向かって頑張ってください。協力します。

6 まとめ

- ・ 多くの参加者が、意識が変わったことにより、減量への関心をもって取り組んでいることがわかる。また、今後の継続的な取り組みにも積極的な意見が多かった。
- ・ ごみ分別の意識が変わることが重要。町は今後も広報等を通じて情報発信していきたい。
- ・ 生ごみの水切りや堆肥化、雑がみの資源化、剪定枝や刈草等の受入れ施設の活用を、更に積極的に推進することで、減量効果を更に向上させていきたい。
- ・ ごみの減量化を進めることによって、将来的に収集運搬回数を減らせるかについては、67%が「できる」33%が「困難なのは」という結果となった。夏季などの時期における保管を心配する意見が多くみられた。
- ・ 町では一部の地域にとどまらず、町全体の取組に広げていくことで、負担金の削減のみにとどまらず、更に大きな経費削減を図りたい。
- ・ 一人でも多くの方が事業を経験することが、ごみ減量化につながる。

